

組立説明書

電動アシスト自転車

品番 **BE-JELJ01**

※特注車含む



BE-JELJ01

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車(部品の一部が異なる機種)も組み立て方はすべて共通です。

お願い

組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店 / 代理店にて斡旋しております。



ペダルレンチ



六角棒レンチ

お知らせ

本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

未組み付け及び要調整部品明細表

チェック	部品名	個数
	ハンドルバー・ハンドルステム(位置調整が必要)	1セット
	ステムキャップ(ハンドルステム用)	1
	手元スイッチ(位置調整が必要)	各1
	バッテリーライト(位置調整が必要)	1
	ペダル	1セット
	ワイヤ錠	1

標準締め付トルク一覧表

M3	(0.8~1.3)N・m	{{(8~13)kgf・cm}}
M5	(3~4.5)N・m	{{(30~45)kgf・cm}}
M6	(6.5~9.5)N・m	{{(65~95)kgf・cm}}

※本文中に締め付トルクの記載が無いねじ締め部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

**警告**

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

**注意**

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

**警告**

けがなどを防ぐために



禁止

■はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない

(シートポストが折れて転倒によるけがのおそれ)



必ず守る

■調整後は必ず点検する

(フロントフォークシステムが折れて転倒によるけがのおそれ)

■ハンドルバー固定部は必ず増し締めを行い確実に固定する

(ハンドルバーがぐらつき転倒によるけがのおそれ)



必ず守る

■ロックナットは確実に締め付ける

(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

■サドル上面を水平に組み付ける

(サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

■ブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を使用する

(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

●補給する目安は1回約5gです。

**注意**

けがなどを防ぐために



必ず守る

■六角棒レンチは六角穴付きボルトの奥まで確実に差し込み、締め付けを行う

(はずれてけがをするおそれ)



必ず守る

■ヒゲ状のバリを取り除く

(バリによるけがのおそれ)

●ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。



お願い

●さび付きによる固着を防止するためシートポストの挿入部には薄くグリスを塗ってください。

お知らせ

●本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

組立方法

■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

①クランク(右側)にペダル(R)のシャフトを時計方向に回し、ねじ込みます。

②クランク(左側)にペダル(L)のシャフトを反時計方向に回し、ねじ込みます。

ペダルのシャフト
締め付トルク
(35~40)N・m
{{(350~400)kgf・cm}}

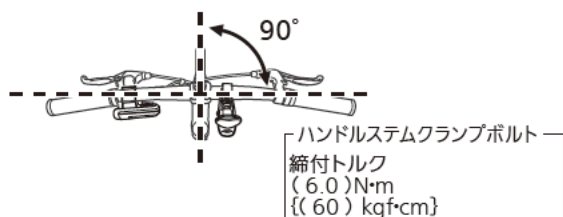
裏面へ続く

■ハンドルバーの調整

①下図のようにハンドルステムクランプボルトを緩めます。



②ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整し、六角棒レンチで六角穴付きボルトを締め付けます。



③ヘッド小物のがたつき・回転が重いときは、ハンドルステムクランプボルトをゆるめてからアンカーボルトで調整してください。

④ヘッドの回転が適正になったら、元通りハンドルステムクランプボルトを締め付けてください。

⑤締め付け後、以下の方法で固定が十分か確認します。

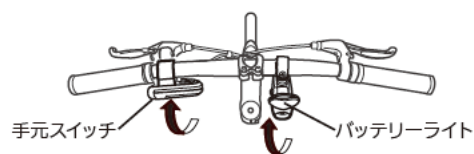
前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して(150 N{15 kgf})、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。

⑥ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

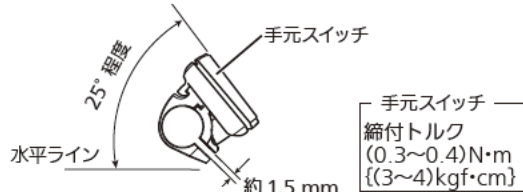


■手元スイッチ、バッテリーライトの角度調整

○手元スイッチ、バッテリーライトは図のように起こし、適正な角度で締め付けを行ってください。



●手元スイッチの組み付け角度



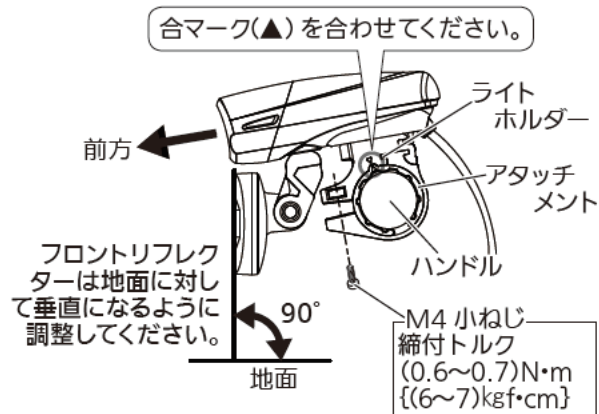
ご注意

●締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。

●バッテリーライトの組み付け角度

○照射角度(前方の路面が見える角度)を決め M4 小ねじで締め付けてください。

※締め付け後、ライトに上下方向の力を加えてみて動かないか確認してください。

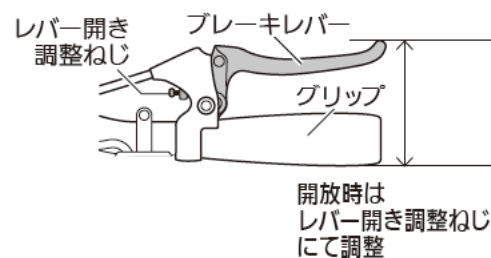


■前後ブレーキの調整

●ブレーキレバーの開き調整

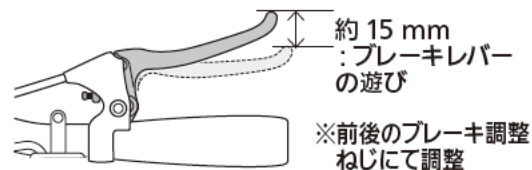
ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。

●ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。



●ブレーキレバーの引きしろ調整

ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをワイヤ調整ねじで調整する。



お願い

●上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。

●前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

●前キャリパーブレーキの調整

①アーチを握った状態で、ワイヤを固定ボルトに固定してください。

②ロックナットを緩める。

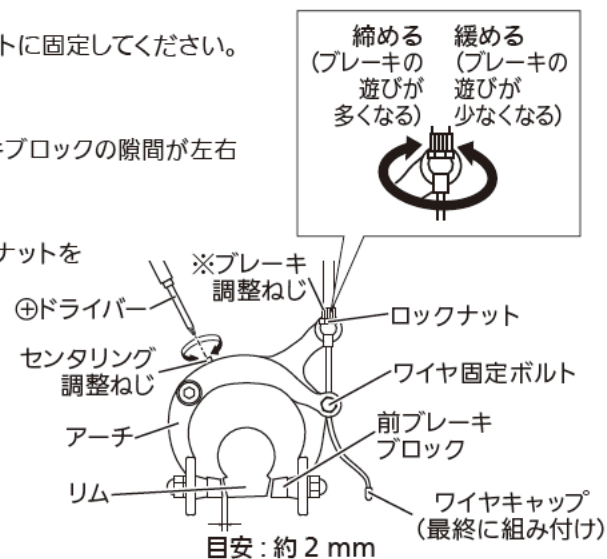
③ブレーキ調整ねじを回す。

④センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する。

⑤走行してブレーキの利きを確認する。

⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

ワイヤ固定ボルト 締付トルク (6.5~8)N・m {(65~80)kgf・cm}	ロックナット 締付トルク (1~2)N・m {(10~20)kgf・cm}
--	--



●後ブレーキの調整

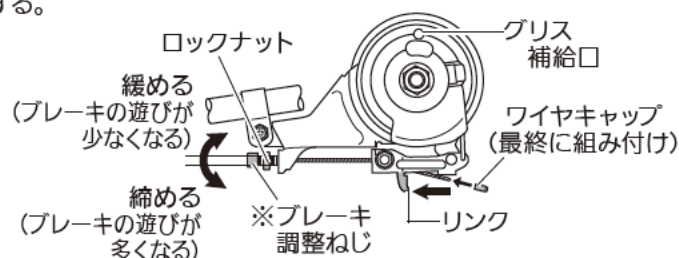
①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。

②リンクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す。

③走行してブレーキの利きを確認する。

④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

ロックナット 締付トルク (1~2)N・m {(10~20)kgf・cm}
--

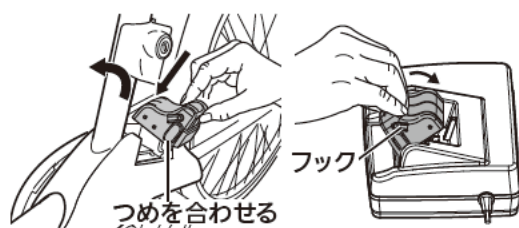


端子カバーの使いかた

お客様にお伝えください。

お願い

●長期間、自転車からバッテリーを取り外したままにする場合や充電器を使用しないときは、汚れやほこりが付かないように、端子カバー(オプション品)を充電器の充電端子部にかぶせておくことをお勧めします。



※フックが引っかかるまで確実に押し込んでください。

お願い

●保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
●防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
●組み立て後、バッテリーを満充電してください。3 か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡しする際にも、満充電をしてお渡しください。
●組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町 13 番 13 号

© Panasonic Cycle Technology Co., Ltd. 2017

NYK2113 G0617-0